

表 A: 小金井市
職員における職
責別女性割合
(2022年4月時点)

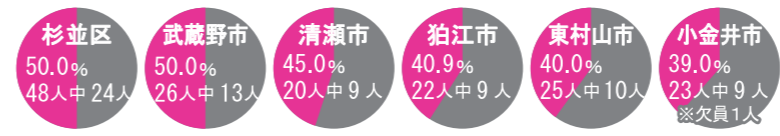
部長職: 0% [男11/女0]
課長職: 19.6% [男45/女11]
係長職: 24.8% [男103/女34]
主任職: 40.6% [男98/女67]
主事職: 65.8% [男93/女179]

表 B: 小金井市職員における
雇用形態別女性割合 (2022年4月時点)
正規職員: 45.4% [男350/女291/合計641]
会計年度任用職員: 81.9% [男60/女272/合計332]

■女性割合の高い地方自治体 2023年4月現在 (安田調べ)



■女性割合の高い東京都自治体 2023年4月現在 (安田調べ)



6/27ローカル・イニシアチブ・ミーティングに登壇した皆さん。岸本聡子杉並区長(後列左から3人目)、ファイティーズプロジェクト代表の能條桃子さん(前列左端)、おのみずき世田谷区議(前列右端)

小金井ネット
2022年度会計報告

生活者ネットの議員の報酬は、議員報酬に係る所得税や住民税、健康保険や年金などを納め、議会担当として月20万円と年2回の賞与(各1月分)で年間280万円を議員に支給し、残りを政策実現の資金として寄付しています。

議員や皆さまからの講読カンパや寄付、会員の会費などで生活者ネットの運営をしています。

事務所を借りて事務局を置き、

小金井の
ジェンダーバランスは?

小金井市議会は2013年から女性議員割合40%以上をキープしてきましたが、現在は39%(23人中9人。欠員1人)。行政側は市長、副市長、教育長、部長職は女性ゼロ。市政の重要施策を話し合う庁議は男性だけで行われていることになりま

す。職員の女性割合は職責が下がるほどに高くなりま

す(表A)。正規職員の女性割合は45.4%、会計年度任用職員の81.9%が女性で、低い年収の職に就いているのは圧倒的に女性です(表B)。

市民参加の場である行政委員会や審議会の女性割合の平均は36.5%で、年々増えています。また半数には届きません。ジェンダーバランスを考慮することは、多様な視点での充実した議論につながります。女性ばかりのPTA、消防団員は男性限定など、これまでの「当たり前」に疑問を持つ人が増えることが、ジェンダー平等社会への第一歩。あな

たの職場や身近なコミュニティはいかがでしょうか?

20代、30代の女性議員を増やそう!
ファイティーズプロジェクト

「政治分野のジェンダーギャップ、私たちの世代で解消を」と、20代30代の地方議員の女性比率まずは3割を目指し発足したFIFTYS PROJECT。代表の能條桃子さんは25歳。政治分野で変化を起こすべく、昨年夏から全国でジェンダー平等を目指す20代30代の女性(トランス女性含む)、Xジェンダー、ノンバイナリー※の方の立候補を呼びかけました。統一地方選で29人の候補者を支援し、24名の女性議員が誕生しました。

統一地方選で
議会が変わった!

4月に行われた全国統一地方選挙。小金井市は選挙がありませんでしたが、東京では杉並区と武蔵野市で女性議員割合が50%となりました。お隣の武蔵野市は改選前の42.3%から26人中13人が当選(うち新人3人)、杉並区では現職が12人落選し48人中24人の女性議員が当選し、議会構成が大きく変わりました。

“ミニシュパリズム”
で未来を変える

地域からボトムアップの政治を実現しようと、昨年立ち上がった「ローカル・イニシアチブ・ネットワーク(LIN-net)」。自治体首長や議員、市民がともに新しい政治の形を提案しています。

キーワードは“ミニシュパリズム”。「地域主権主義」と訳され、市民の主体的参加による自治的民主主義を指します。行き過ぎた新自由主義からコモンス(公共財)を住民に取り戻し、公共の意味を問い直すヨーロッパ発のムーブメントは、まさに生活者ネットワークの目指してきた運動です。6月27日に「地域は変わる!地域主権とコモンスを」をテーマとしたミニシュパリズムを振り返るミーティングを開催。新人女性議員や20代30代の若い世代の議員が集結し、会場は未来の政治に光を照らすような明るい雰囲気になりました。

次回は10月25日(水)開催予定。詳しくはLIN-netのホームページをご参照ください。



LIN-net HP

トランス女性↓
出生時の性が男性、性自認は女性
トランスジェンダー↓
性自認と体の性が一致していない状態
Xジェンダー↓
性自認を女性男性どちらにも当てはめない。性表現と性的指向は不問
ノンバイナリー↓
性自認と性表現を「男性・女性」という二つの枠組に当てはめない

私たちの人生に「政治家」になる選択肢を。

2023年4月は統一地方選挙!!

この人は誰だ?という問いかけ

- 取り戻したい社会課題がある
- 政治の世界、男性ばかりの会だよね?
- 未来の子どもたちのために社会をよくしたい
- 一人では解決できない困りごとがある
- もっと生きやすい社会になってほしい

FIFTYS PROJECT リーフレット

FIFTYS PROJECT HP

●安田けいこ議員報酬収支報告
(2022年1~12月)

収入合計	約827万円
議員報酬	約820万円
委員会手当など	約7万円
支出合計	約827万円
所得税・住民税・国保・年金	約161万円
議員退職時手当・税金等引当金	60万円
安田受け取り額(20万円×14ヶ月)	280万円
資金管理団体「安田けいこ生き生きねっと」へ寄付	約326万円

●資金管理団体から小金井ネットと東京ネットへ寄付します。

●小金井ネット収支報告('22.1~12.)

収入合計	約658万円
▶主なもの	
繰り越し(選挙積立金を含む)	約174万円
会費・寄付・講読カンパなど	約480万円
支出合計	約658万円
▶主なもの	
人件費	約110万円
光熱水費・事務所費	約128万円
備品・消耗品費	約29万円
機関紙発行など	約61万円
調査研究費	約6万円
寄付・交付金	約3万円
活動準備金(選挙積み立てを含む)	約314万円

市民

豊かな緑陰を失った
玉川上水は

「小金井玉川上水の自然を守る会(通称こだま)」として活動を始めて7年目に入りました。2010年から小金井桜復活事業のため市内の玉川上水では桜以外の樹木の伐採が続いています。夏でも涼しかった緑陰がなくなり草花の種類も昆虫も野鳥も全て減って淋しくなりました。

桜だけでなく樹木密度が下がった小金井の玉川上水では、2018年の台風による倒木率が他地区より7倍も高かったことが論文で発表されました。また、風雨と直射日光に繰り返しさられるようになった法面は土壌の流出が始まっています。萌芽更新した樹の伐採を繰り返せば、いつかは枯れ果てて法面を保持できなくなりそうです。

桜を被圧しない程度に他の樹木も残したい、というこれまでの考えを行政に届けていますが、なかなか管理方法の見直しをしてもらえません。市内や他地域から

も、ここまで伐採するとは思わなかった、もつと他の樹木とも共存して欲しいと望む意見が多く届いています。今年2月と5月には白井市長と面談もして、市長も生物多様性に配慮する考えであることがわかりました。多くの緑と共に桜並木がある、自然も歴史も大切にされている場所として小金井の玉川上水が続いていくことを願います。

▲緑町 橋本承子V



衝撃的だった2020年の皆伐。写真奥は桜の幼木